

カトリック山手教会月報

やまて



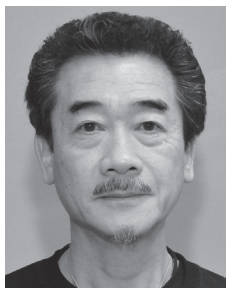
編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第623号 2022年1月16日

人と会えることの恵み

主任司祭 ミカエル鈴木 真

新年あけましておめでとうございます。



長引くコロナ禍の中、2度目の年明けとなりました。教会活動も、何かとリモートだった一昨年から、昨年は宿泊などはできないながらも、少しずつ対面で活動を再開しだした1年でありました。教区の青年活動なども、半日くらいで「集い」として行いましたが、直接、人と会って話をするのがこんなにもうれしく、楽しいものだったんだと今更のように実感しました。もともと、わたしは一人であるのが好きだし、コロナ前は、あまり人に会いたがる方ではなかったんですが、やはり人間とは会って話をしなければ生きていけない生き物なんですね。今まで当たり前にしてきたことが、実は大きな恵みであったと何かと実感します。でも、そんな中で、確かに神さまは働いておられることも強く感じます。主日のミサを動画配信するようになってから、他の教会に行く时必须、そこの信徒の方から「山手のミサ、見えますよ～」と言われて、なんともうれしくなります。

まだまだ先が見通せない中、今年は聖堂の第2期工事も控えています。より一層の皆様のお力とお知恵をいただきたいと思いますが、何よりも、今年も山手教会がキリストの共同体であり続けることが

できますよう、共に歩みたいと願っています。どうぞ、本年もよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

助任司祭 ダリル・ディニョ



キリストにおいて友人である皆さま、私たちはクリスマスを待ち望みながら、この2021年を通して過ごした旅の日々を思い起こしています。この2年間のパンデミックは、私たちにさまざまな課題をもたらしました。

でも、それは同時に、私たちの共同体が神の民として新しくなれるよう強めてくれたようにも思います。

今年のクリスマスは、今までのように忙しくて慌ただしいクリスマスの準備に追われることはありません。だからこそ、私たちは、このクリスマスの核心（ハート）にであうことができます。それは、素朴と静寂、それでいて強さと愛にあふれる真実です。その栄光の夜、一人の赤ちゃんが、乙女マリアから生まれました。神が私たちに光と救いをもたらすために、イエス様が人間となってくださったのです。このクリスマスにイエス様に願いましょう。「私たちの心に平和を与え、人生のあらゆる瞬間に、神が私たちと共にいて、いつも助けてくださることを心に留めておくことができますように」と。

パンデミックは私たちの生活を大きく変えまし

た。でも、どんなことがあっても、クリスマスを祝うことを止めることはできません！

カトリック山手教会から、愛するご家族の皆さまに…

“Merry Christmas and a Happy New Year!”

Fr. Darryl Santos Diño, CM

※2021年12月に日本語で原稿をいただきました。

(編集部)

新年のご挨拶

助任司祭 ルドヴィコ茨木・西村英樹



山手教会の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

司祭叙階からはや幾年月、おかげさまで恵み深い、祝福された1年を過ごすことができました。神に感謝です。コロナ禍にあって、さまざまな出会いと

経験をさせていただきました。これからの司祭生活において宝となると思います。

山手教会信徒の皆さまにとって、よい1年となりますように。

新年のお喜びとともに、祝福をお祈り申し上げます。

教会委員長就任挨拶



前任の太田さんが教会委員長をされていたこの3年は、聖堂の天井が落ちたり、コロナ禍になったりと、通常の教会活動が制限される事態が続きました。大変ご苦労だったと思いますが、私も副委員長として関わ

っていましたので、聖堂の修繕とコロナ対応を引き継ぐということもあり、次の委員長に指名された次第です。歴代の委員長と比べて見劣りがするとは思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

さて、それでは今年はどうなるかといえ、今の日本では感染者が抑えられている新型コロナの感染状況も、一歩外に出ると、まだまだ感染が

収まっているとは言えない状況のようで、しばらくはコロナ対応の状況が続くと思います。本来、誰でも自由に来ることができるはずのミサに人数制限をすることは大変心苦しいことですが、ご理解とご協力をお願いいたします。ミサ以外の教会活動も今のコロナ対策をただ続けるだけでなく、何が緩和できて何をまだ制限するのかを毎月の教会委員会で検討してまいりたいと思います。

また、中途半端に止まっている聖堂の修繕工事ですが、山手教会の聖堂は横浜市の歴史的建造物に認定されているため、また、横浜教区の司教座聖堂でもあるため、横浜市と教区の建設委員会それぞれにお伺いをたてながら、現在、第2期工事の準備をしているところです。具体的には、また後日お知らせすることになると思いますが、今年の夏ごろから第1期工事のときと同じように聖堂が使えなくなることが予想されます。

今年一番の変化は、2022年の待降節から日本語のミサが大幅に変わることはないかと思います。『新しい「ミサの式次第第と第一～第四奉献文」の変更箇所』というカトリック中央協議会が発行している本を少し見てみましたが、文語表現だった箇所が全て変更になっていて、今までのミサとは全く別物に感じられるのではないかと思います。

それでは、新しい年も心をつにして祈ってまいりましょう。

(教会委員会 委員長 小倉 謙)

ヨゼフ会会長挨拶



2022年もヨゼフ会会長を続けさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

コロナ禍の中、この2年間ヨゼフ会は活動らしい活動はほとんどできませんでした。それでも、ミサのお手伝い(主に案内係)に各会の皆様とともに有志が参加してきたこ

とは、ヨゼフ会の存在を体感できる貴重な時間であったと私は思っています。緊急事態宣言に伴う無

会衆ミサへの移行、そして、解除されれば速やかに再開という流れにもすっかり慣れてしまいました。ミサのネット配信のクオリティは日々進化を続けています。昨年5月にはICC、ロザリオ会、ヨゼフ会で費用を分担してサーマルカメラとアルコール噴霧機を購入し、教会に寄付しました。コロナ禍の初期には右も左もわからず試行錯誤していた頃が懐かしく感じるくらいWITHコロナの教会生活が長期化していますが、そんな中でも皆が力を合わせ教会を支えていることは確かなことです。ミサの定員は60人から70人に、ほんの少し改善され、オルガンコンサートも行われましたが、山手信徒限定のグループ別入場制限は未だ継続中です。ミサ中に来られた見学者の方には、福祉委員会で作成したウェルカムカードを差し上げてご理解を得る工夫も行っています。また、コロナ禍においても入門クラスを希望される方は一定数おられるそうです。こういう時だからこそ、教会が必要とされるのです。昨年も申し上げましたが、入場制限のための案内係ではなく「開かれた教会」の真の復活を切に待ち望みます。また、そのためにヨゼフ会として何ができるのか引き続き考え実践していきたいと思えます。

そして、教会委員長に就任早々の2019年に聖堂の天井落下という事態に遭遇し、ようやく修繕工事の目途が立ったら今度はコロナ禍での不安と混乱の中で信徒代表としてご奮闘された太田前教会委員長、本当にお疲れさまでした。心より敬意と感謝の気持ちを表させていただきます。新たなウイルスの変異株が次々と出現し不安は尽きませんが、新委員長の小倉さんはヨゼフ会のメンバーでもあり、会としてもバックアップして、これからも教会を支えていければと思っております。

なお、4月23日には2020年から延期されていたヨゼフ会主催の講演会が予定されております。ご期待ください。また、今年もヨゼフ会費の徴収は、いたしません。

《2022年度役員紹介》

会 長：岡崎芳浩

副会長：久保田 智洋 時久 毅

会 計：世界孝二（新任）

幹 事：石澤正雄 稲見友一 小倉 謙（新任）

川田耕嗣 佐藤康夫 澁谷信男

末澤二郎 田中広一 坪井 暢

古谷信彦 宮 裕一 柳川晋一

※幹事名は五十音順

監 事：青木 淳 佐々木 和男

退 任：有賀英樹

（ヨゼフ会 会長 岡崎芳浩）

ロザリオ会会長挨拶

～これからのロザリオ会に向けて～



今年も4年目となるロザリオ会の会長を務めることになりました。会長に就任した翌年からコロナ禍に見舞われ、さまざまな教会活動が制限される中、会員が集う機会もなかなか持つことができず、やっと第1金曜日のミサが行えるようにはなりましたが、密を避けるために以前のように司祭・信徒館で例会を開くことはまだできない状態です。こうした中で、2021年度のロザリオ会役員は全員が留任ということに同意してくれました。たくさんの方々をお願いしましたが、諸事情によって、ことごとくお断りされ、このような決断に至りました。コロナということばかりではなく、社会情勢、状況の大きな変化によって、今までの行事などは、これからも見直すことを余儀なくされることと思います。また、教会信徒の高齢化、ライフスタイルの変化も大きく影響していると思います。私たちは、これからの1年間を通してロザリオ会の存在意義を問い直し、新たな活動を模索していきたいと願っています。第1金曜日のミサに出て来られない方々、日曜日のミサに出て、それだけで教会とつながっている方々に、もっと共同体としての意識をどうしたら持っていただけなのか、そうしたことも考えながら、何か方策を見つきたいと思っています。どうか、たくさんの方々が教会と深くつながり、共同体としての喜びを分かち

合えますように、ロザリオ会のメンバーと一緒に模索していく1年にしたいと願っています。どうぞ皆様、状況が少しでもよくなりますように、力を合わせていきましょう！

なお、今年もロザリオ会費の徴収は、いたしません。

《2022年度役員紹介》

会 長：山本 紀志子

副会長：松本尚子

会 計：古谷浩子 藤原泰子

書 記：松崎 恵津子 桑原優子 櫻井智美

(ロザリオ会 会長 山本 紀志子)

「主の降誕」夜半のミサ



使徒的祝福

例年、横浜雙葉学園の講堂で執り行われる首題ミサは、新型コロナウイルス感染症対策により、昨年同様、今年も山手教会の聖堂で規模を縮小して午後7時からラファエル梅村昌弘司教主司式により、ささげられました。

梅村司教説教

主の降誕

「神の御ひとり子が人となられた」

救い主イエス・キリストの誕生を祝って、今夜は改めて誕生の意義を思いめぐらしたいと思います。なぜ、「神の御ひとり子が人となられた」のか。それは、ヨハネ福音書で言われているとおり「神は御ひとり子を与えるほど世を愛された」からに他なり

ません。それでは、なぜ、それほどまでに世を愛されたのでしょうか。それは、神は創造主だからです。わたしたちキリスト者は、神をして「天地万物の造り主」と信仰告白します。神は、自ら天地万物を創られたからこそ御ひとり子を与えるほどに世を愛されたのです。

いのちの尊厳

神による天地万物の創造の次第は旧約聖書の冒頭の書である『創世記』に記されていますが、特に人間の創造については「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう」という神ご自身のことばが記されています。神にかたどって創造された人間の「いのち」は神からの賜物であり、尊いもの、かけがえのないものだということです。神によって創造されたわたしたち一人ひとは、かけがえのない存在なのです。『知恵の書』では次のようにも言われています。「あなたは存在するものすべてを愛し、お造りになったものを何一つ嫌われない。…憎んでおられるのなら、造られなかったはずだ。あなたがお望みにならないのに…存在するものが果たしてあるだろうか。いのちを愛される主よ、すべてはあなたのもの、あなたはすべてをいとおしまれる。」(11:23-26)。

被造物である人間は、自らの手で自らのいのちを取り去ることはできません。また同時に、他人のいのちを奪ったり傷つけたりすることもできません。自分のいのちも他人のいのちも、ともに神によって生かされているからです。繰り返しになりますが、すべてのいのちは尊い、かけがえのないものだということです。

人間のいのちに関して忘れてならないことがあります。「人間のいのちに優劣はない」ということです。決して「いのちの質」を問うことがあってはなりません。それは、かつての優生思想にもつながる恐ろしい考え方です。からだに障害があるからといって、心に病があるからといって、いのちの尊厳に違いがあるわけではありません。知り合いの方が、ある冊子に一文を寄せていました。ある盲学校で粘土細工の展覧会が催されました。生徒の作品には、それぞれタイトルが付されていて更に生徒自身

が書いた一文が添えられていたそうです。「眼がほしい」というタイトルの粘土像を作った子どもの作品には「医師にもう見えるようにはならないと告げられた時、僕は心の中で泣きました。声を出して泣いたらお父さんもお母さんも悲しむからです。」という一文が添えられていたそうです。無眼球児で眼窩がくぼんでいる子の作品には「祈る」というタイトルが付されていて「神さま、わたしに眼をください。それがだめならわたしの心の目を開いてください。」という一文があったそうです。お母さんにギュッと抱きしめられている子どもの作品には「お母さんがいつも頑張ってやあとやってくれます」というコメントが添えられていたそうです。この展覧会についての記事を寄稿した知人が自らの文章に選んだタイトルは「どんないのちも輝いている」というものでした。一読したわたくし自身もほんとうに「どんないのちも輝いている」と改めて思い、考えさせられました。「神の御ひとり子が人となられた」ことによって人間のいのちは、もっと、その輝きを増したのではないかと思います。

人間としての尊厳・神の子としての尊厳

創世記をとおして示されている神のメッセージの中で特に大切なのは「いのちの尊厳」ということですが、また同時に「人間の尊厳」という側面も「いのちの尊厳」に劣らず大切です。神に似て造られた存在として、神に象られて創られた存在として、わたしたち人間には神のように人格（ペルソナ）が備えられています。これをもって「人間の尊厳」が尊重されて来たわけですが、この尊厳もまた「神の御ひとり子が人となられた」ことによって更に高められ「神の子としての尊厳」となったのです。

神は、すべてを創造し、創られたものをすべて「よし」とされ、「祝福」されたとあります。平たく言えば、人間は神の前で「まるごとよしとされている」のです。「ありのままに愛されている」のです。このように、わたしたちは創造の時から「ありのままによしとされている」存在、「ありのままに素晴らしい」存在なのです。救い主の誕生は、第二の「よし」であり、第二の「祝福」とも言えます。「神の御ひと

りが人となられた」ことによって、もっともっと神に愛される存在になった。わたしたち一人ひとり誰一人として、例外なく、ありのままに神の子どもとされ、よしとされ、祝福され、無条件に愛される存在になったということを忘れることがあってはなりません。自分を出来損ないだ、ダメな存在だと思っている人はいないでしょうか。そんなことは決してありません。父である神が、わたしたち一人ひとりをご自分の子どもとして、あたたかく見守ってくださっていることを忘れてはなりません。

障害者施設で殺傷事件を起こした犯人の青年が言っていたそうです。「社会の役に立たないおまえたちには生きる価値がない。おまえらは食べて寝るだけで何の役にもたっていない」と言い放ったそうです。まるで「社会の役に立つ人間には生きる価値があり、社会の役に立たない人間には生きる価値がない」と言わんばかりです。こうした考え方は、企業の価値観に起因するものなのではないでしょうか。物質的な豊かさをいかに能率的に求めるかという経済効率をもって至上の価値とする企業の価値観。人間の評価が能率・効率といった物差しだけによってなされるとしたら恐ろしいことです。神によって愛されていない人は誰一人としていません。神の御ひとり子の誕生は、神による無償の愛がすべての人に無条件に注がれているということをつぶさに物語っているのではないかと思います。皆さん、改めてキリスト降誕の意味を思いめぐらしながら、ご一緒にこのミサをささげましょう。家畜小屋には必ず牛と、ろばが置かれています。イザヤ書に由来します。「天よ聞け、地よ耳を傾けよ、主が語られる。わたしは子らを育て大きくした。しかし、彼らはわたしに背いた。牛は飼い主を知り、ろばは主人の飼い葉桶を知っている。しかし、イスラエルは知らず、わたしの民は見分けない」(1:2-3)というイザヤの言葉から来ています。

(撮影：編集部 土方芳人)

教会学校のクリスマスの集い

11月28日は低学年、12月5日は高学年と日にちを分けてクリスマスの集いを鈴木真神父様、西村英樹

神父様にもご参加いただき、万全の感染予防対策の中で楽しく開催できました。

今年も昨年同様、授業も思うように開けず、全体で集うこともできず、今回は半分の仲間でしたが久しぶりに集まり、子どもたちも大変うれしそうでした。当たり前だったことが、こんなにありがたいことだと改めて感じる一日でした。お祈り後、紫のストラを身に着けられた鈴木神父様は、その意味や、2000年前にイエスさまがこの世に来てくださったことは、とても大きなお恵みであること、神さまからのプレゼントに感謝をこめて、私たちが「誰かのために何かをしよう！」と待降節のあり方をお話してくださいました。その後、絵本『クリスマスのおはなし』をリーダーたちの（名声優？）の声にのせてスクリーンで楽しみました。西村神父様は博士の3役を見事に演じ分けられ、子どもたちも目が輝きました。それから各教室に戻り、ツリー工作を楽しみました。感謝あふれる一日となりました。

（教会学校 リーダー 牧野 真規子）

ガールスカウト85団のクリスマス （JCCSカトリックスカウト）

2021年のクリスマス会、今年もコロナ禍の中でクリスマスを迎えました。例年ですと、カトリックスカウトの東京の団と一緒に待降節前に合同のクリスマス会を行っていましたが、今年もみんなと会うことができませんでした。東京の団のリーダーたちと「アドベントカレンダー」を、教会団のみんなに送る計画をたてました。これは塗り絵になっていて、1日ずつ、日付を塗っていったりシールで飾ったりするものです。

山手教会でのクリスマスミサの受付奉仕は、今年もありません。12月19日の集会でガールスカウトだけのクリスマス会を行い、手作りのオーナメントを飾りました。早く感染の不安がなくなり、たくさんのスカウトたちと一緒にキャンプやバザー、教会での奉仕ができる日を祈りながら…（持ち寄りのプレゼント交換も行いました）。

（団委員長 梅田啓子）

2021年12月度教会委員会議事要約

日時：2021年12月5日（日）13：00～14：45

場所：教会ホール

議事内容（議事進行：太田委員長）

1 主な審議確認検討事案 ※順不同

(1) ライブ配信用ブースについて

- ミサのライブ配信において、配信の度に機材の設置、ケーブルの敷設など非常に労力を要することから、専用のブースを設けたい。

【決定事項】

教会委員会として承認する。早速、手配する。

(2) クリスマスのミサの歌について

- 典礼委員会で聖歌隊からクリスマスミサでの入祭、閉祭の歌を歌いたいとの要望が出た。

【決定事項】

- ・ 特に問題はないものと判断し、承認する。

(3) みこころコーナーの再開について

- みこころコーナーの再開を進めたい。
- ミサのA、Bグループの方が利用できるように開くことを考えている。

【決定事項】

- ・ 再開については、問題はないと判断する。
- ・ 再開時期、日程については、みこころコーナーの関係者に任せることとする。

(4) 聖堂使用について

- 横浜教区カトリック小学校合同説明会、共同宣教司牧サポートチーム神奈川、日本語教室「絆」およびパスカの会より施設使用の願いが来ている。

【決定事項】

- ・ 利用を承認する。ただし、新型コロナ対策について実施することを前提とする。

2 今後の活動、報告事項

【水上助祭の司祭叙階式について】

- 水上助祭の司祭叙階式に向けて、他の教会での司祭叙階式に向けた準備について話を伺った。年明けには正式な形で準備を始める予定。

【クリスマスキャロルの配信について】

- 毎年恒例となっているThe Festival of Nine Lessons and Carols（9つの聖書日課とクリスマスキャロル）などについて今年も開催する。YouTubeでの配信については、山手教会のホームページでも告知することとする。

【ロザリオ会からの報告】

- 来年度の役員について決まっていない。推薦などあれば、ぜひ、ご協力をお願いしたい。

【営繕委員会からの報告】

- 12月19日（日）に聖堂の大掃除を行う。ただし、ワックスがけは行わず、掃き掃除、拭き掃除にとどめる予定。

【先唱の講習会について】

- 12月7日（火）、18日（土）に、先唱について関心のある方を対象に西村師による先唱に関する講習会を行う。

【オルガンコンサートについて】

- 2022年2月27日（日）の14：00、15：45の2回、チャリティーコンサート委員会主催によるオルガンコンサートを行う。
- チケットは、大人2000円、高校生以下は1500円。
- クリスマスにチラシを配布できるように現在作成中。

【ヨゼフ会主催講演会について】

- 2022年4月23日（土）に山口県宇部教会主任司祭の片柳弘史師をお招きし、講演会を開催する。

【福祉委員会からの報告】

- ブラジルの日系人のために、宣教師として派遣されている佐々木治夫師支援のためのクリアファイルの販売について、ご協力ありがとうございました。
- 現在の寿町では40～50代が多くなっており、収入が減った方、ネットカフェから路上生活になっている方が増えてきているとのこと。物の支援だけではなく、傷ついた感情をくみとるなど、寄り添い、丁寧な傾聴などが必要になるとのことであった。
- 今後、福祉委員会の中でも検討を進め別途報告を行う。

【教会ホールのトイレの清掃について】

- 正月明けに業者に依頼し、その後は信徒で清掃する。年2回程度を業者清掃にする予定。

【教会学校からの報告】

- 11月21日（日）の「子どもとともに、ささげるミサ」で初聖体と幼児洗礼式を行った。
- 12月12日（日）13：30から「子どもとともに、ささげるミサ」を行い、2人の幼児洗礼を行う予定。
- ご多分に漏れず教会学校のリーダーも不足しており、候補の方がいれば推薦していただきたい。

【入門講座からの報告】

- 12月4日（土）に入門式を行い20の方が参加

して、祝福とお祝いのカードが渡された。

【横浜みこころ幼稚園からの報告】

- 12月9日（木）にクリスマス会を教会ホールで行う。

【みこころコーナーからの報告】

- 11月に手帳とカレンダーを申し込まれた方で受け取られていない方が5人いる。

【ミサにおける聖堂の窓の開放について】

- 寒いとの意見が出た。窓を開けるということについては、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために教会委員会で決定したことであり、今後も感染症拡大防止のため、山手教会では窓の開放は続ける。ミサに参加される方は、各自で防寒対策をしっかりと行っていただきたい。

3 主任司祭から

- 11月28日（日）に教区の青年の集いを行い、30人が集まった。
- 2022年1月4日（火）に教区学連の集まりを行う予定。
- 2022年1月9日（日）11：30のミサ後に成人の祝福を行う。
- サポートチーム神奈川の傾聴の講座は藤沢教会で行われる。興味のある方は、ぜひ参加いただきたい。
- 2022年3月2日（水）が灰の水曜日となり四旬節が始まる。今年も合同の志願式は行わず小教区で行うのかを確認する。
- 新型コロナウイルスの影響もあって、受洗者へのフォローができていない。昨日の入門式では20の方が参加されており、来年の復活祭での受洗者も相当数いると思われる。洗礼を受けたはいいが、その後、何もできていないということについて考えていきたい。
- 2022年6月5日（日）に司教による堅信式を行うことは確認済。ミサの配信では、受堅者の名前がわからないように配慮する。

4 教会委員会役員について

- 太田康子委員長については、本年度をもって委員長を退任する。後任は小倉謙さん。

5 次回教会委員会

1月9日（日）13時30分～15時30分終了予定。

（総務担当 宮 裕一）

2022年1月・2月主日ミサの聖歌および奉仕者予定表

主日	聖歌 (歌わずに章句を唱えます)			聖歌隊	時間	奉仕者			ミサ参加割当	
	答唱詩編	アレリヤ唱	感謝の讃歌			オルガン	先唱	聖書朗読		
1月1日	神の母聖マリア	典55 ①②③	典258 神の母	典205	7:30	手塚	末澤	柳川	石川	抽選で決定
					* 11:30	太田	村田(義)	石田	坪井(美)	抽選で決定
2日	主の公現	典136 ①②③④	典258 主の公現	典205	前日pm5:00	藤沼	竹之内	新井田	島田	夜ミサA
					7:30	太田	時久	古谷(信)	二宮	朝ミサA
9日	主の洗礼	典68 ①⑤	典258 アレリヤアレリヤ わたしより力ある かたが来られ聖霊 と火によって洗礼 を行われる	典205	前日pm5:00	村松	斎藤	鈴木(明)	福田(直)	夜ミサB
					7:30	中川	二宮	大濱(学)	大濱(美)	朝ミサB
16日	年間第二主日	典148 ①②⑤	典271 2C	典205	前日pm5:00	村松	山本(康)	工藤(元)	志村	夜ミサA
					7:30	渡邊	末澤	松村	仁井田	朝ミサA
23日	年間第三主日	典124 ①②③	典268 3C	典205	前日pm5:00	忠海	田中(麻)	羽石	阿部	夜ミサB
					7:30	手塚	亀井	加藤(正)	山本(真)	朝ミサB
30日	年間第四主日	典146 ①②③	典271 4C	典205	前日pm5:00	忠海	吉川	柳川	櫻井(智)	夜ミサA
					7:30	太田	時久	花田	石井(典)	朝ミサA
2月6日	年間第五主日	典134 ①②③	典268 5C	典205	前日pm5:00	藤沼	竹之内	新井田	島田	夜ミサB
					7:30	太田	石賀	古谷(信)	石川	朝ミサB
13日	年間第六主日	典100 ①②④	典271 6C	典205	前日pm5:00	村松	斎藤	鈴木(明)	福田(直)	夜ミサA
					7:30	中川	二宮	東海林(珠)	時久	朝ミサA
20日	年間第七主日	典93 ①③④	典268 7C	典205	前日pm5:00	村松	山本(康)	工藤(元)	志村	夜ミサB
					7:30	渡邊	末澤	石川(喜)	中村(桂)	朝ミサB
27日	年間第八主日	典143 ①③	典271 8C	典205	前日pm5:00	忠海	田中(麻)	羽石	阿部	夜ミサA
					7:30	手塚	亀井	古谷(浩)	藤本	朝ミサA
					* 11:30	米沢	藤原(ま)	川田	鈴木(理)	昼ミサA

(注) ・コロナ禍による緊急事態宣言の再発出により、一般信徒不参加のミサに変更となる際には、別途「教会からのお知らせ」に従ってください。
 なお、ミサ中の聖歌(上記)は、しばらく歌いませので応唱句などは皆さん静かに唱えてください。
 ・「子どもとともに、ささげるミサ」は当然ありません。

編集後記



『やまて』2021年11月号の「世界代表司教会議(シノドス)開始ミサ」の記事に誤りがありました。「コムニオ、コムニオール」とありますが、正しくは「コムニオ・コムニオーム」でした。おわびして訂正します。
 写真は、2017年1月23日の深夜に小生が撮影した世界遺産・白川郷の日本でも珍しい、かやぶき屋根の明善寺です。気温マイナス5度、吹雪の中での撮影となり、かやぶき屋根が真っ白な綿帽子で覆われて

いました。

今年も、より良い山手教会報作成のため、メンバーが入れ替わり次の8人で努力しますので、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。太田康子、木下こゆる、古山久美子、竹之内弘美、田中麻子、中島晶子、渡邊敏行、土方芳人で、古山と渡邊が増えました。2月号で自己紹介を掲載する予定ですので、ご期待ください。
 (土方芳人)

☆表紙のカット(山手教会)は、濱尾文郎枢機卿様の「えはがき」です。